実施日:令和4年1月18日(火) 令和 3 年度第 4 回和光市史平成版編集委員会議事録 13:00~15:00 編集委員:宮瀧先生、佐々木先生、磯、黒沢 場所 ZOOM 会議 出席者 和光市(事務局):茂呂課長、鈴木様、石田様、相田様 ぎょうせい:徳島、亀山 プレ初校(プロローグ・エピローグ) 初校ゲラ (「和光市の歴史(かこ)をふり 各委員からの意見聴収の資料一式 議題 かえる」) 配布物 (ZOOM 会議に伴い、 上記プレ初校・初校ゲラについて 事前に和光市より、送付済み)

各編さん委員からの意見について協議

・今回も前回同様、各編さん委員からの意見の内容を踏まえ、その対応案について事務局から説明(和光市:石田様)。各委員から多くの意見が寄せられたことを踏まえ、事務局対応案の中から特に協議すべき必要があるものをピックアップしながら、宮瀧先生、佐々木先生、編集委員より質問・確認、協議を行った。

<プレ初校:「プロローグ・エピローグ」について>

編さん委員の意見を受けての内容検討

- ・宮瀧先生より「プロローグ・エピローグの書きぶりとしては、少し硬くまじめ過ぎる印象を受ける。この本の導入であるプロローグは、少し柔らかくなるように工夫してもよいのではないか。例えば、和光市ゆかりの童謡詩人の清水かつらの一節、『緑のそよ風 いい日だな~・・・』など数行引用して、導入として柔らかく、入りやすいように工夫してはどうか。」とのご指摘があり、佐々木先生、事務局含めて検討していくことに同意した。
- ・また、エピローグとしては、「小学生の未来への作文」の掲載なども可能であれば、面白いので検討を加えることとし、「できるだけ工夫して、文体を柔らかくしていく(和光市長、和光市教育長のヒアリングを受けての内容は含まれているので)」ことを確認・同意した。
- ・DXなどの略称の表記は、欧文で補うのか、カタカナで補うのか、表記の統一をしていくこと、また、 プロローグ・エピローグ中は、脚注形式はそぐわないので、本文の中で説明することを確認した。

<初校ゲラ:「和光市の歴史(かこ)をふりかえる」について>

- ・ルビの基準について、「中学生以降で習う漢字にルビを付けることとする(小学校6年生までに習う配当漢字には付けない)。また、以前の編集委員会で決めた「中学生に読んでもらう」ことについては、スケジュール的に間に合うということであれば実施し、時間的余裕がなければ、中学生が読めるレベルで作成していくことで良いか」との事務局提案がされたが、前者については了承され、後者については再校の段階で読んでもらうということも考えられるので、今後のスケジュールを見ながら検討していくこととした。
- ・「部落」表記への対応については、『和光市史 通史編 下巻』の例言のような対応案が示されたが、逆に指摘を受ける可能性があるので、例言のような表記は入れず、全て「部落{集落)」とすることを確認した。
- ・佐々木先生より「遺跡の内容・分量が中世以降に比べて多く、資料編のように感じる。他の時代との整

合を図って分量を減らし、出土遺跡などは別編として、巻末に入れるなど構成の再編をしたほうが良い」とのご指摘あり。これを受けて宮瀧先生も「検討が必要な内容」として同意し、再校以降になると組替えは難しいので、この初校ゲラ段階で調整することとした。この部分の文章調整については、和光市生涯学習課の鈴木さんにお願いすることとした。(2月中旬までに入稿する)

再校ゲラは大きなレイアウト変更ができないということを和光市史編さん委員会委員に示して、意見を もらうよう宮瀧先生からご指導があった。

・宮瀧先生、佐々木先生両先生方で協議の結果、「人々の暮らしに特化した、時代概況―人間生活」に関する記述に」ついては、各時代1頁(約800文字程度)ずつとし次のように決定し、ご執筆いただけることになった(1月末頃に原稿入稿予定)。

宮瀧先生:原始・古代・中世(3ページ分) 佐々木先生:近世・近代(2ページ分)

- ・このほかの修正については、おおむね事務局対応案のとおりで確認・了承された。
- ・次の再校ゲラについては、両先生方の原稿及び遺跡関係の調整、また事務局対応案の修正を加えた上で 提出することとした(再校の予定としては3月中旬~下旬頃を想定)。

【今後の予定】

・次回第5回の和光市史平成版編集委員会の予定は、3月4日(金)14時かららZ00M会議での開催予定。 内容は、初校ゲラ「和光市の平成をたどる」の編さん委員からの意見について協議。

[以上]